

景気回復のポリシー・ミックス

●
第一生命経済研究所 顧問
丸尾 直美

いつの時代にも支配的な経済学と経済政策論がある。そのビジョンと理論に影響されて政策が行われる。支配的ビジョンと理論を欠く時代は支配的権力を欠く戦国時代のように経済政策が混迷する。1990年以降の日本はそうした混迷の時代だった。まだケインズ経済学が支配的だった1993年に不況に直面した宮沢内閣は、公共事業拡大を中心とするケインズの不況対策を導入した。ところがそのケインズ政策の有効性が疑問視され、副作用としてのレントシーキングや財政赤字の慢性化が問題になった。ケインズの政府の経済介入は薬の乱用が身体ホルモンの調整機能を損なうように市場メカニズムの機能不全をもたらす。このことに気付いた橋本内閣は1997年に、新古典派的経済学のビジョンと理論に影響された経済政策へと転換した。その橋本内閣の政策の挫折で、ケインズ派的政策に少し戻った後、現在の小泉内閣は新古典派的構造改革を橋本内閣のとき以上に推進しようとしている。

新古典派経済学は政府の介入を有害と考え選択の自由と市場を至上視する。特に政府が財政均衡を維持し、企業が収支健全経営をすることが市場正常化の要件だと考える。一方、ケインズ派は市場の失敗を重視し、積極的な不況対策や福祉政策が必要と考える。新古典派對ケインズ派の考えの違いはR.ロバーツの『インビジブルハート』という小説の中で、新古典派経済学を信奉する若い高校教師とその同僚でケインズ・福祉国家的な女性教師の対話として取り上げられるほど一般的になっている。この小説では両者が理解しあうようになるというところで終わっているが、実際にはこれら二つの政策を同じ次元で、同時にとることはアクセルとブレーキを同時に踏むようなものである。それぞれの政策を中途半端に交互にとってきた1993年以降の日本の不況対策もとみにポリシー・ミックス原理を理解しない政策組合せの悪しき例である。

ケインズの需要面の介入政策と新古典派的供給面での市場化は、相容れない政策だが、相容れない(トレードオフ関係にある)政策目的を政策手段の組合せで両立させ

るのがポリシー・ミックス戦略である。ポリシー・ミックスというコンセプトは、R. A. マンデルの名で知られる。彼は国内経済の需給均衡と国際収支の均衡という二つの政策目的を財政政策と金融政策という二つの政策手段の組合せで両立させうことを示した。需要重視のケインズ派の景気対策と供給サイドの市場重視政策のポリシー・ミックスの実例は、1960年代にスウェーデンが導入したレーン＝メイドナー・モデルによる経済政策である。レーン＝メイドナー・モデルは、マクロ的需給均衡、労働市場の需給のミスマッチ克服、所得分配の平等化、という三つの目的を（１）ケインズの需要拡大政策、（２）労働市場の市場化を進める供給面での労働市場政策、（３）賃金格差を縮小させる連帯賃金政策および福祉政策、という三つの政策手段の組合せである程度成功したが、90年代には新たなポリシー・ミックスを不況対策として導入した。一般に「トレードオフ関係にある複数の政策目的を同時に実現するためには政策目的と同数の政策手段を必要とする」。これをティンバーゲンの定理というが（J. ティンバーゲン、気賀健三・加藤寛訳・解説『経済政策の理論』）。福祉ミックス論（加藤寛・丸尾編、ライフデザイン研究所監修『福祉ミックスの設計』有斐閣）はティンバーゲンの定理とマンデルのポリシー・ミックス戦略の経済社会システムへのアナログ的な適用である。福祉ミックス戦略は、福祉分野での効率・公正・人間的価値という三つの政策目的に経済の市場システム、政府の計画システム、社会のインフォーマル・システムという三つのシステムを割り当てて効果的に実現しようとする。

ポリシー・ミックス原理を今日の不況克服の経済政策にも適用すべきである。すなわち 市場機能の回復、景気の回復、分配の公正という三つの目的を、１）長期的には資産市場を含む経済の市場化・効率化のための構造改革で、２）当面の不況克服としては、公的資金を従来型の公共事業にでなく、市場機能を果たしていない金融機関への投入等により金融機能を正常化し、活性化する資産政策で実現する。今日の経済の心臓は金融機関である。心臓が身体中に酸素を送るように、企業や消費者に資金を供給する。その心臓の金融機関が機能不全では経済は循環しないからである。３）さらに市場化と福祉抑制にともなう分配の不平等に対しては資産ベースの福祉政策で対処する。これが今の日本が取るべきポリシー・ミックスだろう。

今月号の荒川論文は、不況対策としても必要とされる資産流動化の一つの道を探っている。有効活用されていない個人の金融資産や不動産を消費や証券投資に誘導する政策は不況対策としても有益な一つの資産政策である。鷲見論文は、道路特定財源を研究対象として、その改革の方向を示唆している。レントシーキングという政府の失敗に対する新古典派的構造改革の一例として注目される研究である。